

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型通所支援事業所 あさひ（独立行政法人 国立病院機構 敦賀医療センターに併設）		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 15日		～ 令和8年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 24日		～ 令和8年 2月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療機関に併設されている事業所であるため、医療的なサポートが手厚い。	家族からの医療的な内容の相談に看護師が対応している。利用児の状態に合わせた対応（バイタル測定、観察、処置）を看護師が行っている。	利用者個々人の医療的な対応について、看護師間で検討を行い、ご家族と相談の上、必要に応じて対応を変えている。
2	障害福祉サービスを行っている医療機関に併設されている事業所であるため、医療型障害児入所や短期入所等の他のサービスに繋がりやすい。	利用児に関するだけでなく家族の状況も面談等で確認し、相談に応じている。 相談支援専門員とも連絡を取り合っている。	敦賀医療センターの障害福祉サービスのパンフレットを掲示する。
3	非常時（災害等）の対策として様々な対応を行っている。	BCPの作成、非常用バッグの準備、定期的な避難訓練、防犯研修、非常時のご家族との連絡手段の準備、ご家族への説明等を実施している。	防犯対策を検討中。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多機能型通所支援事業所であるので、学校休業日は放課後等デイサービス利用者や利用が被ることがあり、利用日の調整で家族の希望通りにならない可能性がある。	事業形態の都合。	家族・相談支援専門員等と密な調整を行い、他事業所の情報も収集する。
2	車椅子・座位保持装置やベッドからマット上に降りて過ごす場合、範囲が限られる。	施設の物理的な構造の都合。 ベッドや車椅子・座位保持装置で過ごされる利用児者が多い。	マットを多く用意し、利用者数等に応じ、敷くマットの数を調整する。マット上の物品（ブロッククッション等）を整理する。
3			